

# 日野町立保育所さくら園

日時：平成20年10月10日(金) 13:00~17:00

平成20年10月23日(木) 9:00~17:00

場所：蒲生郡日野町北脇988

さくら園から10分ほど歩いたところに、今回フィールドとなるお寺の裏山があります。裏山の入り口付近は竹林ですが、奥にはいると、竹だけではなく樹木やツル植物が茂っています。そうしたそれぞれの特徴を活かしたプログラムを作りました。

(対象：年中・年長 33名)

事前に葉っぱの手紙が子どもたちに届き、宮崎駿監督のアニメ映画「となりのトトロ」の主人公、トトロからの手紙と、子どもたちは期待いっぱいでした。



葉っぱのお手紙

1回目は講座、下見とプログラム作りです。2回目は作成したプログラムの実践とふりかえりです。講座の一部を紹介します。 講師 島川武治(しまっち)さん

参加者の皆さんに、自己紹介を兼ねて、思い出に残っている小さいときのあそびを聞きました。

秘密基地を作った・川でザリガニやカニを捕った・イネを刈りとった跡を踏んで音を楽しんだ・学校帰りに草花であそんだ・麦のストロー・田んぼで氷を見つけて踏んだなど、あそびと自然が密着し、あそびが生活の延長でした。

しかし今の子どもたちはこんな思い出をもっているのでしょうか。自然の中であそんだ経験の少ない大人は、自然はこわい・きたない・危険だというイメージを持っています。園での自然体験は大事です。自然を大切に思い、大事にする子どもに育ててほしいです。



森入り口

しまっち：これからこの森の中にはいるけど、どう？  
子どもたち：「こわい!」「緊張する」「電気を持ってきたらよかった」  
最初は、ほとんどの子どもたちが森は怖いという印象を持っていた。

## 「聞いてみよう森の声」のプログラム

竹林の中に入り、気持ちを落ち着かせて、耳を傾けます。音の様子で何が起きているのか想像し、音の美しさや不思議さを感じます。支援者が出した音を探したあと、自分たちで音を探しに行きます。

竹踏んだら、バリバリって音した。

サッサッサとトトロの歩く音。

シューシューと風の音や!

竹に耳当ててカンカンしたらいい音がした。

ぶっちょい木で、竹をたたいたらおもしろい音がした。

チュンチュン鳥の声。

この音聞いて、コンコンってするで!

ピチャピチャ、トトロの食べる音や!

夢中で音を探す姿がありました。森の中にはいろんな音があり、音を聞いているだけで想像が広がります。鳥の羽ばたく音や鳴く声など森にはたくさんの生きものがあることにも気づきました。

## 「森の遊園地へようこそ」のプログラム

倒木やツルなどでサーキットあそびをして、木と仲良くなります。  
お手紙：ここは森の遊園地だよ。木と友だちになるうね。

支援者：友だちって、どんなこと？

子どもたち：なかよしすること。一緒にあそぶこと。

支援者：木と握手したり、抱きついたり、一緒にあそんで見よう。

この木冷たい！

こっちは冷たくないよ！



あの木までがんばる。

トトロの傘みたいなの見つけた



魔法のほうきみたい！



雨が降ったけれど、森の中では雨を感じませんでした。今日仲良かった木たちは動かないけれど一生懸命生きています。

## 「森の妖精の贈り物を探そう」のプログラム

片方だけ固定してあるひもを竹から竹に引っかけて迷路を作ります。  
迷路であそびながら森の妖精の贈り物を探しま

迷路作り



迷路あそび

贈り物あったよ。

登り棒みたいや。



贈り物：ドングリ2つとひまわりの種

二人に一つしかなかった贈り物はペア同士で分けました。贈り物のドングリは森にかえし、ひまわりの種は園に持ってかえて植えることになりました。ビニールのひもは土に帰らないので、皆で協力して片づけました。

二人に一つの贈り物について、一人一つにしてもよかったのではないかと意見があり、ふりかえりの時間に話し合いました。

- ・ 少し葛藤しながらも相手を思いやれるいい機会だった。
- ・ とりあいをしていて二人で一つと聞いて一つの贈り物を二人で持っていた。
- ・ 少し高いところにあった贈り物を協力しあって取っている姿があった。

(しまっちアドバイス)

- ・ メッセージの中に相手を思いやるというねらいがあったので、二人に一つの贈り物にこだわってもよいです。ただ子どもたちが安心感をもてるような工夫が必要です。納得のいかなかった子どもには必ずフォローをしましょう。

プログラム後「森が怖い？」と聞くと、誰も怖い人はいませんでした。子どもたちは、「またおとうさんと来たい。」「おうちの人に連れて来てもらう。」とっていました。